

令和6年度 病害虫情報 第8号 トマトキバガ
対象作物：トマト、ミニトマト（特に夏秋トマト）

トマトキバガの発生に注意

◎ トマトキバガの「幼虫」が葉や果実を食害します！

- ・群馬県内では、令和6年7月に中部地域に設置したトラップで誘殺が初めて確認され、同年10～12月に西部、北部、東部の各地域のトラップでの誘殺が確認されました。総誘殺数は北部のトラップで最も多くなっています（図1）。
- ・トマトキバガは寒さに強いいため、本県でも越冬している可能性があります。
- ・そのため、令和7年は早い時期から飛来する可能性があり、特にトマト（その中でも夏秋トマト）での被害が懸念されます。
- ・被害葉はハモグリバ工類の食害と類似するため、被害の特徴をよく観察し防除の判断を誤らないよう注意しましょう（詳しくは裏面）。

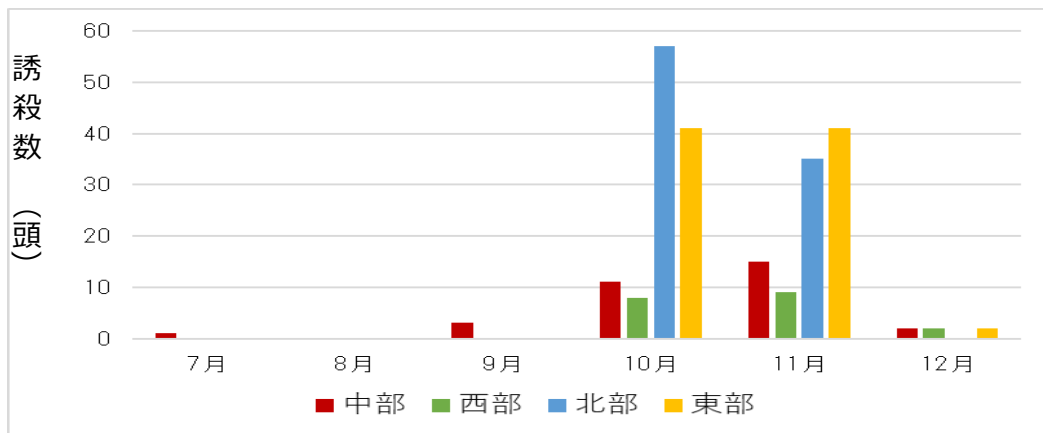


図1 県内のトラップへの誘殺状況（令和6年7～12月抜粋）

成虫

- ・体長8mm程
- ・体色は灰褐色（小さくて細い蛾）



蛹

- ・薄い繭をつくる
- ・狭い場所にいる（マルチ裏や資材の隙間）



幼虫

- ・体長8mm（終齢）
- ・頭部後方の黒帯



頭部後方の黒帯

卵

- ・0.2～0.4mm程
- ・クリーム色の円錐形（茎葉表面に産卵される）



防除対策

① 物理的防除

- ・ハウスの開口部すべてに防虫ネット（目合い0.8mm以下）を設置してください。

② 耕種的防除

- ・苗に寄生していないかよく確認し、健全な苗を定植してください。
- ・幼虫や卵の除去、灰色かび病等の二次的な感染防止のため、摘葉や整枝を適切に行いましょう。
- ・残さは発生源となるため、栽培終了後は速やかに処分してください。特に被害茎葉及び果実は発生源となるため、土中深くに埋設するか、ポリ袋等で十分密閉したのち適切に廃棄してください。
- ・周辺のナス科雑草は増殖源になる可能性があるため、除草に努めてください。

③ 化学的防除（薬剤散布）

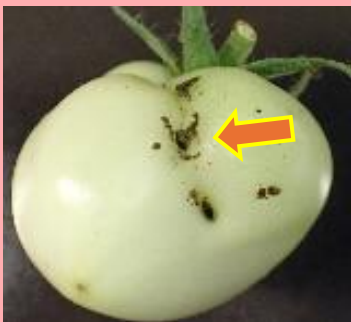
- ・ほ場での発生や作物被害が確認された場合は直ちに薬剤散布を行ってください。
- ・オオタバコガやコナジラミ類を防除する際に、トマトキバガにも登録のある薬剤を選択することで、発生抑制につながります。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

トマトキバガの被害の特徴



【葉の被害】

- ・面的に食害。
- ・虫糞は一ヶ所にまとめて排泄される。
- ・葉裏からも食害痕が鮮明に見える。



【果実の被害】

- ・果実の表面を食害したり、果実の内部に食入する。
- ・果実とへたの間に潜入していることもあり、見過ごしやすい。

被害痕が類似する他害虫



【ハモグリバエ類】

特徴

- ・線的に食害。
- ・虫糞は食害しながら排泄される。



【オオタバコガ】

特徴

- ・食入した穴の付近に湿った大量の糞が排出される。